

## **11月17日、「新潟支部との懇話会」を開催**

### **高木理事長、酒匂市場委員長、吉里総務委員長と支部11名が懇談**

当組合は、これまで本部と支部の交流・情報交換として、①毎年開催される支部総会（東京、東海、大阪、九州）に理事長が出席し、地元の支部組合員と懇談を行い、本支部間の交流を深めるとともに、

②毎年1月、『全国支部長・委員長会』を開催し、理事長、9支部長、3委員長が出席して、事業報告・連絡のほか各種議案に関する検討を行うなど、交流事業を実施してきている。

平成22年度からは、上記事業に加え、新たに上記4支部以外の支部（北海道、東北、新潟、神姫、中国）の組合員とも交流や情報交換を図るために、『本支部懇話会』を随時実施することとなった。

7月開催の北海道支部に引続き、同懇話会の第2回目として、去る11月17日（水）、新潟支部との会合が新潟市で開催された。

本部からは、高木理事長と、酒匂副理事長・市場委員長、吉里理事総務委員長が出席し、新潟支部からは、真柄修支部長（新潟スチール㈱社長）、今井幹文・藤田金属㈱社長、近藤雄介・近藤与助工業㈱社長、渋井信之・渋井鋼材㈱社長ほか11名が出席し意見交換が行われた。

会議は、真柄支部長の司会により開会、議事が進行された。

最初に真柄支部長より歓迎挨拶及び地区の現況について報告が行われた。引続き、高木理事長より、「本会は各支部の生の声をお聞きするため、本年7月の北海道支部との懇話会を皮切りにスタートした。当地区は需要の大半が建設向けのようなのであるが、その建設部門は足元不振を極めている。リーマンショック以降2年が経過したが戻る気配は全くなく、まさに構造的不況の真っ只中にある。近年ピーク時の鉄骨需要は700万規模に達していたが、それが去年は400万トンに減少し、今年は400万トン以下に落ち込む可能性がある。しかるに鉄骨系シャーは6割操業でも成り立つように体質を強化しなければ、ゲームに参加できなくなる企業が出てくることも考えられ、来年度はこれがはっきりする年となろう。この不況下でもう一つ頭の痛い問題が輸入鉄骨問題だ。鉄骨総量の20%が厚板使用量とすると、400万トンの20%は80万トン。このうちの10%（8万トン）相当量をMCSがすでに浸食している。国内ファブにとって見過ごせない事態が進行しており、中国の精工PDが加われば、さらに1割が食われることになる。今後しばらく目が離せない状況が続く。一方メーカーに対してはスピードアップ化する時代に従来のような納期対応では通用しない。契約時の納期と価格に差異が生

じるようではシャア業の経営は成り立たない。工期短縮に向け重ねてメーカーに要望・申し入れを行っていく。最後に、当組合が一昨年来取り組んでいる「品質証明問題」は、ガイドラインの実運用化に向け、鉄建協サイドと実務者レベルの意見交換を実施しているが、近々両団体の役員レベル会合を開き、双方のガイドラインに対する認識・基本的考え方を確認することとしている。これらがいずれ両業界にとって意味あるものになるよう継続実施していく予定である。ご協力のほど宜しくお願いしたい。」との挨拶が行われた。

続いて、地区の情勢を中心に種々意見交換が行われた。意見は概ね以下の通り。

- ①本年度上期の建設需要は50～60%まで落ち込み、4月以降赤字経営が続いている。人員対策にも苦慮している。
- ②ファブの叩き合いが続き、自助努力も限界に達している。
- ③売値が下落し、東鉄価格が基準になっている。
- ④県内物件の注文が、かなり県外のゼネコンやファブに逃げている。当該地区に落とすしてくれないと厳しい。
- ⑤高炉メーカーが市場にあった価格政策を行わないならば、これまでの看板を背負ってはいられない。材料メーカーを選択する時代だ。
- ⑥最近、品質証明に関し厳しい管理を押し付けるファブが増えている。余材活用面では、他のファブ名、工事名が入っているものは同じ材質であっても他の物件に転用ができない。何とかしてほしい。また端面塗色についてもファブ毎に異なり標準化すべきだ。
- ⑦タイや中国のファブの技術向上は目覚ましく、日本にとって今以上に脅威になることは間違いない。

以上

#### 【新潟支部との懇話会の開催概要】

- ・ 日 時 平成22年11月17日(水)
  - ①会議(懇話会) 14時30分～16時30分
  - ②懇親会 16時30分～18時
- ・ 場 所 ANAクラウンプラザホテル新潟
- ・ 出席者
  - 【本 部】4名  
高木理事長、酒匂副理事長・市場委員長、吉里理事総務委員長  
柘野(事務局)
  - 【北海道支部】11名  
真柄支部長(新潟スチール株)

近藤社長、高橋次長（近藤与助工業㈱）、  
渋井社長、志田部長、長谷川課長（渋井鋼材㈱）、  
今井社長、多村部長、渡辺所長（藤田金属㈱）、  
岡山取締役、福本常勤嘱託（新潟スチール㈱）

なお、会議に先立ち、藤田金属㈱多村部長、渡辺所長のご案内により、同社・新潟鋼板センターを見学させて頂き、懇切丁寧なご説明を受けた。

以 上